

## 2018年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	教授	石川 幸生
最終学歴	学 位	専 門 分 野
中部学院大学大学院人間福祉学研究科後期博士 課程満期退学	体育学修士、 福祉マネジメント修士	生涯スポーツ、 レクリエーション

### I 教育活動

#### ○目標・計画

##### (目標)

建学の精神に基づいて体育・スポーツ・レクリエーションの指導者に必要な知識と技術を習得させ、健康・スポーツ分野で活躍できる人材の育成を目標にしている。特に専門分野を生かし、地域社会に貢献できる生涯スポーツ分野における人材を育成する。

##### (計画)

校訓である真面目を基本としながら、前年度の授業アンケートやリアクションペーパーの結果から、分かりやすく興味を持てる授業を心掛け、事前事後学習に繋げるための取り組みやすい課題を提供する。また、実習については手引の作成や資料作りを計画し情熱を持って教育実践を行う計画である。

#### ○担当科目（前期・後期）

(前期) レクリエーション論、スポーツ社会学、野外運動論、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ  
(後期) スポーツ原理、生涯スポーツ論、レクリエーション実技、レクリエーションインターンシップ、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

#### ○教育方法の実践

学生の理解度を高めるため、ビデオなどの教材やリアクションペーパーを導入し活用した。また、教育効果を高めるため、課題に関するレポートの提出を課した。

#### ○作成した教科書・教材

講義科目では、できる限り最新情報を入れたオリジナルな資料づくりを心掛けた。また、実習科目では、分かりやすい手引書の作成をした。その他、自身が出演したビデオを活用した。

#### ○自己評価

授業アンケート評価から、担当科目である前掲の各講義科目、演習科目、実習科目について良好な評価を学生から得ている。前掲の教育実践スタイルや作成した資料、手引書、レポート課題、リアクションペーパー、ビデオ等の活用により、おおむね目標を達成することができた。しかし、アンケート調査結果から読み取れる事として、改善点としては、事前事後に繋げるための授業工夫が必要であり、そのためには、なるべく双方向の授業スタイルを目指し、理解しやすい分かりやすい興味を持てる学習課題を学生に課題提供することで一層の授業改善に向けた取り組みを試みたい。

### II 研究活動

#### ○研究課題

生涯スポーツとしてのニュースポーツ及びスポーツツーリズムに関する研究

## ○目標・計画

### (目標)

生涯スポーツ社会実現の推進に役立つものとして「ニュースポーツ研究やスポーツツーリズム研究」等を行う。

### (計画)

本年度は、昨年に続き全国健康福祉祭（ねんりんピック）に焦点を当てニュースポーツ及びスポーツツーリズムの研究調査に取り組む計画である。

## ○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

### (著書)

- ・杉谷正次、石川幸生、山内章裕『現代スポーツマネジメントーマーケティングからマネジメントの時代へ』三恵社 2016年9月
- ・藤森憲司、杉谷正次、青木葵、石川幸生、葛原憲治『スポーツツーリズムの可能性を探るー新しい生涯スポーツ社会への実現に向けてー』愛知東邦大学地域創造研究所編 唯学書房 2015年11月
- ・石川幸生、杉谷正次、山内章裕『現代スポーツビジネス』三恵社 2012年8月
- ・石川幸生、杉谷正次、後藤永子、青木葵、木村典子、山内章裕、『超高齢社会における認知症予防と運動習慣への挑戦ー高齢者を対象としたクロリティー活動に効果に関する研究ー』愛知東邦大学地域創造研究所編 唯学書房 2012年3月

### (学術論文)

- ・木村典子、石川幸生、青木葵「認知症啓発教育が大学生の認知症高齢者のイメージに及ぼす効果」東邦学誌 第43巻, pp141 - 151 2014年6月
- ・木村典子、石川幸生、青木葵、「大学生の抱く認知症高齢者のイメージと関連要因」東邦学誌第42巻, 第1号, pp. 75 - 85 2013年6月
- ・木村典子、杉谷正次、石川幸生、青木葵、後藤永子、山内章裕、「認知症と精神的健康に焦点をあてた介護予防としてのニュースポーツー地域のクロリティークラブチームからの考察ー」愛知学泉大 学・短期大学研究論集、第46号、2011年12月
- ・杉谷正次、青木葵、石川幸生、御園慎一郎、杉浦利成、「スポーツ・ツーリズムの可能性を探るー国際リゾートをめざす北海道ニセコ地域の事例からー」東邦学誌 第40巻, 第2号, pp. 1 - 15 2011年12月
- ・木村典子、杉谷正次、石川幸生、青木葵、後藤永子、山内章裕、「高齢者の記憶の自己効力感についての検討ークロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察ー」東邦学誌第40巻, 第1号, pp. 129 - 139 2011年6月

### (学会発表)

- ・Masatsugu SUGITANI, Yukio Ishikawa, Takashi ONO, Mamoru AOKI 「Study on the Park-golf of the effects of a lifetime sport, From the survey of the awareness of Park-golf enthusiasts」 International Conference of the 66<sup>th</sup> Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, 20<sup>th</sup>-22<sup>th</sup> August 2018, p75.
- ・杉谷正次、石川幸生、青木葵、脇坂康彦、小野隆「生涯スポーツとしてのパークゴルフに関する研究ースポーツツーリズムに着目してー」第65回日本教育医学会大会、三重大学、2016年8月 p 55.
- ・Noriko KIMURA, Mamoru AOKI, Yukari MATSUI, Yukio ISHIKAWA, Masatsugu SUGITANI 「Current state of end-of-life care for older adults with dementia in group homes:Results of a

nationwide survey in Japan」第 63 回日本教育医学会兼第 16 回日韓健康教育シンポジウム、関西学院大学、2015 年 8 月 pp. 136-137 .

- Noriko KIMURA, Chihiro KIMATA, Yukio ISHIKAWA, Mamoru AOKI, Masatsugu SUGITANI Masataka TERASHIMA 「Perceptions of older people with dementia held by university students and relevant factors」第 61 回日本教育医学会兼第 15 回日韓健康教育シンポジウム、大韓民国 済州大学校アラキャンパス、2013 年 8 月 pp. 84-85.
- 杉谷正次、石川幸生、青木葵、御園慎一郎、杉浦利成、葛原憲治「スポーツ・ツーリズムの可能性を探る－生涯スポーツとしての『グランド・ゴルフ』発祥地大会を事例として－」第 14 回日本生涯スポーツ学会、広島経済大学、2012 年 10 月 p45.
- 木村典子、杉谷正次、石川幸生、青木葵、後藤永子、山内章裕、「地域密着型サービスを拠点としたまちづくりに関する研究－クロリティー活動の事例から－」第 60 回日本教育医学会記念大会、筑波大学、2012 年 8 月 pp, 133-134.
- 杉谷正次、石川幸生、青木葵、木村典子、後藤永子、山内章裕、「高齢者を対象としたクロリティー活動の効果に関する研究－愛知県、島根県のクラブ活動からの考察－」第 60 回日本教育医学会記念大会、筑波大学、2012 年 8 月 pp, 135-136.
- 木村典子、青木葵、石川幸生、杉谷正次、後藤永子、山内章裕、「地域で仲間とスポーツを楽しみながら生活している高齢者の記憶の自己効力感の検討－A 県クロリティー大会に参加した高齢者からの考察－」第 53 回日本老年社会科学会 2011 年 6 月, p245.
- 木村典子、青木葵、石川幸生、杉谷正次、後藤永子、山内章裕、「地域で暮らし仲間とスポーツをおこなっている認知症の疑われる高齢者についての検討－クロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察－」第 26 回日本老年精神医学学会, 2011 年 6 月, p245.

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- （第 36 回）学術研究振興資金・日本私立学校振興・共済事業団 申請（共同）－不採択
- 平成 22 年度：科学研究費補助金 申請（共同）－不採択

○所属学会

日本教育医学会、日本生涯スポーツ学会、日本体育学会、日本レジャー・レクリエーション学会、日本野外教育学会、日本スポーツツーリズム推進機構

○自己評価

前掲の 8 年間の業績として、著書：2（編著）、2（共著）、学術論文：5（共著）、学会発表 9（共同）を著した。本年度は、学会発表 1 篇（共同）を研究発表することができた。従って、おおむね目標を達成することができた。

### Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

建学の精神に基づき、校訓である真面目を基本として情熱を持って、今までと変わりなく職分を全う出来るように心がけたい。

（計画）

計画は、配属先（学生募集戦略委員会委員、入試委員会委員）の委員会で仕事を十分理解し職分を全うできるよう尽力したい。

○学内委員等

学生募集戦略委員会委員、入試委員会委員

#### ○自己評価

学生募集戦略委員会委員、入試委員会委員として、関連業務の適確な推進と委員会の円滑な審議に貢献できた。愛知東邦大学地域創造研究所「スポーツツーリズム研究部会」副査として研究成果するための調査研究ができた。

#### IV 社会貢献

##### ○目標・計画

###### (目標)

地域との連携により行われている国際交流に協力し、地域における文化・生涯スポーツの推進を図り、地域の文化や健康づくりの向上に貢献する。

###### (計画)

地域の文化や健康づくりを目標に、地域における国際交流や生涯スポーツとしてのニュースポーツに対する楽しさと理解を深める事業や学会活動に参画する予定である。

##### ○学会活動等

- ・愛知東邦大学地域創造研究所「スポーツツーリズム研究部会」副査として研究活動を行った。(名古屋市)
- ・International Conference of the 66<sup>th</sup> Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, 20<sup>th</sup>-22<sup>th</sup> August 2018, の大会役員として参画した。
- ・日本教育医学会副会長として学会の運営に携わった。(日本全国)
- ・公益社団法人 日本幼少年体育協会 学術委員会委員として参画した。(日本全国)
- ・社団法人 全国大学体育連合東海地区評議員として参画した(東海地域)
- ・東郷町国際交流協会会長として運営に参画した。(愛知県・東郷町)
- ・日本クロリティー協会理事長、愛知県クロリティー協会副会長として運営に参画した。(日本全国および愛知県)
- ・NPO 法人フレンドリー情報センター理事として運営に参加した。(日本全国)
- ・東郷町スポーツ推進会議委員長として会議の運営に携わり参画した。(愛知県・東郷町)

##### ○地域連携・社会貢献等

- ・平成 30 年度 東郷町文化産業祭り協賛事業「国際交流・オーストラリアの紹介」開催した。(東郷町)
- ・ニュースポーツフェスティバル in あいち 2018 年に参画した。(愛知県・モリコロパーク)
- ・第 30 回愛知県クロリティー選手権大会開催した。(愛知県体育館・第 2 競技場)
- ・第 46 回愛知県老人スポーツ大会(正式種目:クロリティー)の開催に携わり参画した。(あいち健康の森大芝生広場)
- ・2018 年度クロリティー日本大会を開催し運営に携わり参画した。(愛知県体育館・第 2 競技場)
- ・2018 年度クロリティー名古屋大会を開催し運営に携わり参画した。(愛知県体育館・第 2 競技場)

##### ○自己評価

学会活動や研究活動等をはじめ、地域における国際交流イベントに参画できた。また、ニューコンセプト・スポーツである「クロリティー」大会等の開催をとおして、日本及び愛知県民の健康づくりや親睦、合わせて地域交流に貢献できた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

『Who' s Who in World 2011 28<sup>th</sup> 2012 29<sup>th</sup> 2013 30<sup>th</sup> 2014 31<sup>th</sup> 2015 32<sup>th</sup> 2016 33<sup>th</sup> 2017 34<sup>th</sup> 2018 35<sup>th</sup> Edition』（米国）にニュースポーツの研究開発とその社会貢献が認められ人名録に収録された。

『2000 Outstanding Intellectuals of the 21<sup>st</sup> Century 2014, 2015, 2016 , 2017 , 2018 』（イギリス）大学教員として38年間の教育とニュースポーツの研究開発の成果と業績及び顕著な社会貢献等が高く評価され人名録に収録された。

VI 総括

教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献、その他、それぞれの項目について当初の目的をおおむね達成できたように思う。この総括を踏まえて、今後一層の自己研鑽を積み、更なる次の目標を見据えた諸活動に役立てながら成果を得たいと思う次第である。

以 上